

フ ク ビ

フリーフロアーC P R

施 工 要 領 書

フクビ化学工業株式会社

(目 次)

1.適用範囲	 2
2.製品概要	
2－1 工法概要	 2
2－2 特 長	 2
2－3 参考納まり図	 2
3.材 料	
3－1 材質	 3
3－2 副資材（ビス等）	 3
3－3 捨張合板仕様	 4
3－4 床高さ調整範囲	 5～6
4. 施工手順	 7～9
5. 施工検査表	 1 0
6. 割付例（壁先行工法・床先行工法）	 1 1～1 2
7. 納まり例（壁先行工法・床先行工法）	 1 3～1 4

1.適用範囲

本仕様書は乾式二重床床下地「フリーフローアーCPR」の工事に適用する。

2.製品概要

2-1 工法概要

2枚以上のパーティクルボードの床パネルが一つの支持脚を共用する「共通支持脚工法」で、床パネルの上に直接フローリングを施工できる工法です。

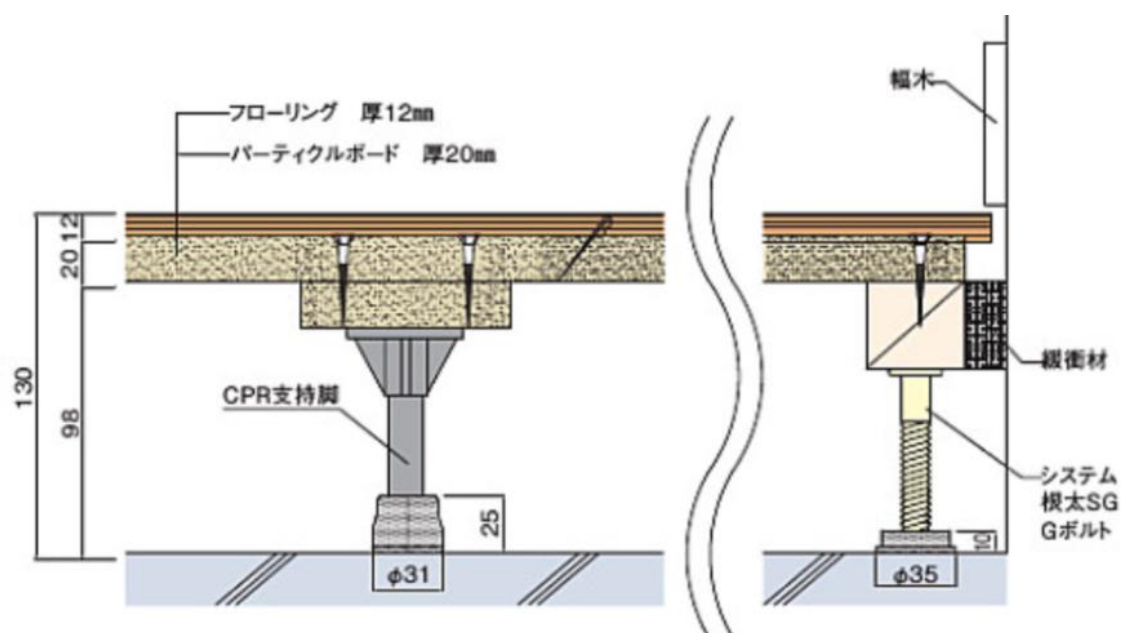
支持脚はパーティクルボードの台板と樹脂製の支持ナットと支持ボルト(遮音ゴム座付)からなり支持ボルトを回すことによりレベル調整が可能です。

2-2 特長

・施工性

配管配線が自由・現場加工の軽減・レベル調整が容易・高い耐塩害性能・抜群の作業性

2-3 参考納まり図



3. 材 料

3-1 材質

部 材 名			材 質	備 考
C P 用床パネル			パーティクルボード J I S-M 1 8 厚み 2 0 mm	600 mm×1820 mm
C P R 支持脚	汎 用	台 板	パーティクルボード J I S-M 1 8 厚み 2 0 mm	20×87×87 mm ブチル系粘着テープ付き
		ナット	ポリプロピレン	5・15・30・50 mm
		ボルト	特殊ナイロン	SBR25 mm ゴム座付 10 mm コム座(補強用)
	超 低 床 用	台板ナット	ポリプロピレン 厚み 1 0 mm	10×100×100 mm ブチル系粘着テープ付き
		ボルト	特殊ナイロン	SBR25 mm ゴム座付 10 mm コム座(補強用)

3-2 副資材（ビス・釘等）

用 途	仕 様
CP 床パネと CPR 支持脚の固定	皿頭・フルキビス 38 mm 以上

* 超低床用支持脚をご使用の際は、半ネジタイプのビスをご使用下さい。

3-3 捨張合板仕様

仕 上 げ 材			捨張合板厚み
種 類	厚み	巾	
複合フローリング	12mm以上	140mm以上	不要
		140mm未満	9mm以上
	12mm未満	—	
無垢フローリング	—	—	12mm
直張りフローリング	—	—	9mm以上
ビニル床シート クッションフロア ビニル床タイル タイルカーペット カーペット	—	—	
畳	—	—	

※記載する種類以外の仕上げ材の場合、捨張合板の仕様は別途ご相談ください。

※仕上げ材メーカーの施工要領に捨張合板仕様の記載がある場合には、仕上げ材メーカーの仕様に従ってください。

※住宅用途以外に使用する場合は、捨張の厚みについて別途ご相談してください。

※床暖房パネルを施設する場合には、捨張合板12mmを施工してください。

※ビニル床シート、クッションフロア、ビニル床タイル仕上げの場合、捨張合板の目地が表面に浮き出る恐れがあります。12mm捨張合板の上に5.5mm合板を重ね張りすることで目地の浮き出しを軽減することができます。

3-4 床高さ調整範囲

●フリーフローアーCPR支持脚規格（ゴム座25mm）

C P 支持脚種類	中央高さ (mm)	床パネル(20mm)天端までの 高さ調整範囲(mm)
CP 支持脚 0-53R	62	53～70
CP 支持脚 0-63R	72	63～80
CP 支持脚 5-63R	84	70～98
CP 支持脚 15-63R	94	80～108
CP 支持脚 M30-88R	119	95～143
CP 支持脚 M30-113R	140	95 (113) ～168
CP 支持脚 M30-138R	165	95 (138) ～193
CP 支持脚 M50-163R	200	115 (136) ～238
CP 支持脚 M50-188R	225	115 (188) ～263
CP 支持脚 50-218R	255	218～293
CP 支持脚 50-268R	305	268～343
CP 支持脚 50-318R	353	318～368
CP 支持脚 50-363R	395	363～428

※「CP 支持脚 M30-〇〇」や「CP 支持脚 M50-〇〇」については、調整範囲を広くするために、パーティクルボード 20mm天端より支持脚のボルトが突出する可能性があります。

不要なボルト部分については、ノコギリやノミでカットしてください。

なお、中央高さはボルトカット不要な場合で表記しております。

【表記例】

CP 支持脚 M30-113R 調整範囲：95mm（113mm）～168mm

⇒113mm～168mmの調整範囲ではボルトカット不要

⇒95mm～112mmではボルトカット必要

●フリーフローアーC P・F 支持脚規格（補強用ゴム座 10 mm）

C P 支持脚種類	中央高さ (mm)	床パネル(20 mm)天端までの 高さ調整範囲(mm)
CP 支持脚 0－ 3 8	4 6	3 8～ 5 5
CP 支持脚 0－ 4 8	5 6	4 8～ 6 5
CP 支持脚 5－ 4 8	6 9	5 5～ 8 3
CP 支持脚 1 5－ 4 8	7 9	6 5～ 9 3
CP 支持脚 M30－ 7 3	1 0 4	8 0～1 2 8
CP 支持脚 M30－ 9 8	1 2 5	8 0 (9 8) ～1 5 3
CP 支持脚 M30－ 1 2 3	1 5 0	8 0 (1 2 3) ～1 7 8
CP 支持脚 M50－ 1 4 8	1 8 5	1 0 0 (1 4 8) ～2 2 3
CP 支持脚 M50－ 1 7 3	2 1 0	1 0 0 (1 7 3) ～2 4 8
CP 支持脚 5 0－ 2 0 3	2 4 0	2 0 3～2 7 8
CP 支持脚 5 0－ 2 5 3	2 9 0	2 5 3～3 2 8
CP 支持脚 5 0－ 3 0 3	3 3 8	3 0 3～3 7 3
CP 支持脚 5 0－ 3 4 8	3 8 0	3 4 8～4 1 3
CP 支持脚 100－ 3 4 5 K	4 2 2	3 8 8～4 5 5
CP 支持脚 100－ 3 8 7 K	4 6 4	4 3 0～4 9 7
CP 支持脚 100－ 4 2 9 K	5 0 6	4 7 2～5 3 9
CP 支持脚 100－ 4 7 1 K	5 4 8	5 1 4～5 8 1
CP 支持脚 100－ 5 1 3 K	5 9 0	5 5 6～6 2 3

※「CP 支持脚 M30－〇〇」や「CP 支持脚 M50－〇〇」については、調整範囲を広くするために、パーティクルボード 20 mm天端より支持脚のボルトが突出する可能性があります。

不要なボルト部分については、ノコギリやノミでカットしてください。

なお、中央高さはボルトカット不要な場合で表記しております。

【表記例】

CP 支持脚 M30－ 9 8 調整範囲：8 0 mm（9 8 mm）～1 5 3 mm

⇒9 8 mm～1 5 3 mmの調整範囲ではボルトカット不要

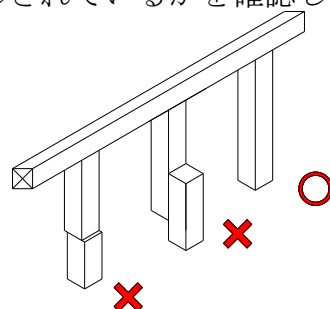
⇒8 0 mm～9 7 mmではボルトカット必要

4. 施工手順

4-1 施工要領

①スラブ面の清掃ときわ根太の確認

- ・コンクリート床面を清掃し、極端な凸凹のある場合は修正を依頼します。
- ・施工前にコンクリートスラブがしっかり乾燥していることを確認します。
- ・床下地は高湿度下で施工しないように注意します。また、多量の水をこぼさないように注意します。床パネルなどの反りやカビの発生の原因になります。
- ・必要箇所にきわ根太が取り付けしており、高さも適当かをチェックします。この時、きわ根太と配管の高さについてもチェックします。
きわ根太及び束が接する面に接着剤が塗布されているか。きわ根太が確実に取り付けられているか。
(きわ根太を片足で押さえタワミ・スレ音等がないか確認します。)
- ・床先行工法の場合には、間仕切り位置が墨出しされているかを確認します。
- ・きわ根太用束は、構造材となりますので、損傷の恐れがある右図のような「継ぎ施工」はしないでください。



②支持脚の仮高さ調整

- ・きわ根太の高さに合わせて支持脚の仮高さを調節します。

③1枚目の床パネルの敷き込み

- ・敷き込み図に従い張り出し位置を確認。敷き込み図が無い場合は、張り終いの床パネルの幅が200mm以下にならない事と床パネルの長手方向がフローリングの長手と直交するように注意します。
床パネルの方向は原則的に部屋の短い方向に床パネルの長手がくるようにします。
- ・1枚目の床パネルをきわ根太にのせ床パネルの角に支持脚を仮設置します。この時パネルと壁躯体との間に2～3mm程度の隙間をとります。
きわ根太にかかる床パネルをフレキ付皿ビス(38mm以上、ピッチ300mm以内)で固定します。
- ・支持脚の粘着テープの剥離紙をはがし支持脚ピッチ455mm以内になるように床パネル長辺中央部に支持脚を設置し、最後に角の仮設置した支持脚を正規の位置に設置します。この時床パネル長辺方向の目地が20mmになるように専用目地ドライバー等定規を用いて設置します。

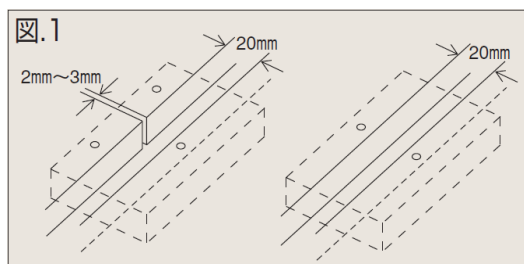
- ・ 支持脚の粘着テープの剥離紙をはがし455mmピッチ以内になるように床パネル長辺中央部に支持脚を設置し、最後に角の仮設置した支持脚を正規の位置に設置します。この時床パネル長辺方向の目地が20mm程度になるように専用目地ドライバー等定規を用いて設置します。

④ 1列目の床パネルの敷き込み

- ・ 2枚目以降も同じように順次施工していきます。この時床パネルの短辺の隙間は2～3mmとし、1列目のパネルの敷き込みを完了します。
- ・ 次に、専用ドライバーでボルトを回して床パネルのレベル調整をします。
(1列毎に糸を張りレベル調整をします)。
- ・ レベル調整する際に支持脚が傾いていないか確認し、傾いている場合には垂直に直します。

⑤ 2列目以降のパネル敷き込み

- ・ 敷き込み図に従い床パネルがちどりになるように敷き込みます。
この時床パネル長辺方向の目地幅が20mmになるように専用ドライバー等を用いて設置します。
- ・ 2列目も1列目と同様にレベル調整した後、1列目の床パネルと支持脚をフレキ付皿ビス(3.8×38mm以上)にてパネル1枚につき1ヶ所固定します。支持脚と床パネルのビス固定は2列目のレベル調整後に1列目のビス打ちをする手順で固定します。
- ・ 超低床用Oナット(樹脂台座ナット) ご使用する場合は必ず半ネジタイプビスにて固定します。



⑥ 床パネルの順次敷き込み

- ・ 床パネルの1列毎に水糸を張りレベル調整をしていきますが、支持脚と床パネルのビス固定は2列目終了後に1列目の支持脚というように1列戻るような方法にて固定していき、支持脚の傾き等補修が必要であれば順次行います。
- ・ 立ち上がり配管等で床パネルを切り欠く場合は、配管と床パネルの隙間が5～10mm程度取れるようにします。この時余分な切り込みは避けます。切り込み部は必ず補強用支持脚等で補強します。
- ・ 張り終いの床パネルの幅は200mm以上とします。

⑦床下地完了

- ・床パネルを全面に敷設し、最終レベル調整を行い完了します。
- ・床下地施工後、部屋全体を歩いてみて、釘の打ち忘れ、床鳴り、床の沈み込み、浮き上がり、段差などが無いかチェックします。
- ・床下地完了後は、重量物の仮置きをしません。

(石膏ボード12.5mmで50枚程度を平積みの限度とします。)

⑧捨張合板の施工

- ・薄物仕上げ材等の場合、捨張合板が必要です。
捨張合板の目地と床パネルの目地が合わないよう施工してください。
この時、捨張合板の床パネルに対するかかり寸法は150mm以上とします。
- ・捨張合板の方向は、基本的には床パネルと直交する方向に施工します。
- ・床高が低い場合は、捨張合板を仮置きした際に、配管位置をマーキングします。
- ・捨張合板の張終いの幅は200mm以上とします。
- ・捨張合板の固定は
5.5mm合板の場合：タッカー（419J相当）にて3尺×6尺合板を1枚に対して6本×9列＝54本以上とします。
9～12mm合板の場合：3尺×6尺合板に対して32mm以上のスクリュー釘で5本×9列＝45本以上
又は32mm以上のビスで300mmピッチ以下とします。

⑨仕上げ材施工

- ・床下地完了後は出来るだけ早く、仕上材を施工してください。
- ・フローリング施工の際は、床パネルと目地を避けて床パネルの長手方向と直交するよう施工します。フローリングと床パネルのかかり寸法は150mm以上とします。
- ・フリーフローアーは特有の弾性を有しています。フローリングの施工の際には釘（フロアステーブル）が緩むことの無いよう、接着剤を併用するなど、フローリングメーカーの施工要領書に従い確実な施工をお願いします。

5. 施工検査表

検 査 内 容	検 査 結 果
レベルが出ているかを確認する。 (3/1000 mm以内)	
壁廻り、柱廻りとの取り合いを確認する。	
立ち上がり配管が、接触していないかを確認する。	
ボルトの調整忘れがないかを確認する。	
きわ根太やフリーフロアーの接合部への固定が正しく施工されているかを確認する。	
フリーフロアーの上を歩き床鳴りがないかを確認する。	